

2010年12月1日

報道関係各位

シンジェンタジャパン株式会社

## 新規抵抗性雑草対策成分 MX(メソトリオン)配合 水稲用除草剤

12月1日より販売開始

シンジェンタジャパン株式会社（本社：東京都中央区、村田興文社長）は、2010年5月19日に農薬登録を取得した新規抵抗性雑草対策成分 MX（メソトリオン）配合の水稲用除草剤「アピロトップ® MX 1キロ粒剤 75」、「アピロトップ® MX 1キロ粒剤 51」、および「アピロキリオ® MX 1キロ粒剤 75」、「アピロキリオ® MX 1キロ粒剤 51」の販売を12月1日より開始いたします。（MXはメソトリオンの愛称です。）

MX（メソトリオン）は、スイス国シンジェンタ社で開発された天然除草成分由来の新規除草成分です。近年、国内で大きな問題となっている SU 抵抗性雑草にパワフルでスピーディーな効果を発揮します。

MX（メソトリオン）は、次のような特徴を持っています。

### 特徴 1. 天然由来の除草成分

MX（メソトリオン）は、オーストラリア原産の低木樹「金宝樹」が持つ他の植物の成長を阻害する天然除草活性成分（アレロケミカル）の構造をモデルに開発されました。

### 特徴 2. 抵抗性雑草対策成分

ホタルイ、コナギ、ミズアオイ等の SU 抵抗性雑草に極めて高い除草効果を発揮します。しかも、従来対策成分より、低薬量で抵抗性雑草を抑制します。

### 特徴 3. パワフル&スピーディー

従来コントロールが困難であった発生後の SU 抵抗性を含むホタルイやコナギ、ミズアオイにパワフルに作用します。またその効果発現もスピーディーで約 7~10 日で効果を確認できます。

### 特徴 4. イネに対する高い安全性

イネに対する安全性も極めて高く、最もイネにとって薬害が発生し易い田植同時処理においても安心してご使用いただけます。

### 特徴 5. 環境にやさしい

MX (メソトリオン) は、一反あたり従来の抵抗性雑草対策成分の 3 分の 1 から 15 分の 1 の有効成分量で効果を発揮します。また土壤に長期残留、蓄積することがありません。野生生物に対する安全性も高く、極めて環境負荷が少ない薬剤と考えられます。

MX (メソトリオン) は、2001 年にドイツ国で初めて登録を取得しました。現在では、トウモロコシ、サトウキビ等でも登録が取得されています。日本においても 2010 年 5 月 19 日に登録を取得し、このたび上市に至りました。SU 抵抗性雑草に極めて高い効果を発揮する MX (メソトリオン) を配合した製品は、これらの雑草によるコメの収量減、品質低下、カメムシ等の害虫媒介の助長を防ぎ、コメの生産性向上に大きく貢献すると確信しています。

シンジェンタは初中期一発剤の基幹品目として、「アピロトップ® MX 1 キロ粒剤 75」および「アピロトップ® MX 1 キロ粒剤 51」を、シンジェンタジャパン(株)の商系ルートを通じて、「アピロキリオ® MX 1 キロ粒剤 75」および「アピロキリオ® MX 1 キロ粒剤 51」は、系統ルートを通じてそれぞれ販売致します。また来年 3 月には初期一発剤の「マキシ® MX1 キロ粒剤」の上市を控えており、引き続き様々な MX 混合剤の開発を進めて参ります。弊社は 5 年後には全 MX 混合剤で、全水稻面積 160 万 Ha のうち、40 万 Ha の普及を目指しております。

是非、MX シリーズの今後に展開にご期待下さい。

添付資料 1 : 適用雑草の範囲および使用方法

添付資料 2 : 使用上の注意事項

添付資料 3 : 製品写真

シンジェンタは、“植物のちからを暮らしのなかに“を企業目的として世界 90 カ国以上で事業を展開し、2 万 5,000 人超の社員を擁する世界のリーディングカンパニーの一つです。ワールドクラスの科学、グローバルな事業活動とお客様へコミットメントを通じて、作物の生産性向上、環境の保護および健康と生活の質の向上をサポートしています。さらに詳しい情報は、インターネット [www.syngenta.com](http://www.syngenta.com)（英語）または、[www.syngenta.co.jp](http://www.syngenta.co.jp)（日本語）をご覧ください。

#### **将来の見通しに関する記述についての注意事項**

本リリースには、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、「見込まれています」、「でしょう」、「の予定です」、「潜在的な」、「計画」、「展望」、「推定」、「目的」、「目標」またはその他これに類似した表現により特定されます。そのような将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受けるため、実際の結果と異なる可能性があります。そのようなまたはその他のリスクと不確定性については、シンジェンタが米国証券取引審議会に提出した入手可能な書類をご参照ください。シンジェンタは、実績、前提条件の変化などの要因を反映するための将来の見通しに関するいかなる記述もそれを更新する義務を一切負わないものとします。本リリースの全体または一部は、シンジェンタAGの普通株またはシンジェンタADSの売却もしくは発行を申し出るか、勧誘するものではなく、それらの購入または申込の申し出を勧誘するものでもありません。また、それらの目的のために締結される契約に関してその根拠または拠り所となるものではありません。

本件に関するお問い合わせ先  
シンジェンタジャパン株式会社  
コーポレート・アフェアーズ  
坂本智美・大塚真理子  
TEL：03-6221-1088 / 1109

「アピロトップ® MX1キロ粒剤75」

添付資料1：適用雑草の範囲および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ  ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植後5日～ ノビエ3葉期 ただし、移植後 30日まで	壤土 ～埴土	1kg/10a	1回	湛水散布	北海道 東北

ピリフタドを含む農薬 の総使用回数	プレチアコールを含む農薬 の総使用回数	ハンスルフロニチルを含む農 薬の総使用回数	メトリオンを含む農薬 の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	1回

## 「アピロトップ® MX 1キロ粒剤 75」

### 添付資料 2：使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせて秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの 3 葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ(北海道)、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは 2 葉期まで、ウリカワ(東北)は発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきは丁寧に行なうこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行なうこと。田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用すること。
- (4) 散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、少なくとも 7 日間は通常の湛水状態（湛水深 3～5cm）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意すること。また、落水、かけ流しはしないこと。
- (5) 下記のような条件下では葉害が発生する恐れがあるので使用をさけること。  
特に下記、①～③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意すること。
  - ① 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深が 2cm/日以上）。
  - ② 軟弱な苗を移植した水田。
  - ③ 極端な浅植えの水田、および浮き苗の多い水田。
- (6) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- (8) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (9) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (10) いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
- (11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、普及指導センター、病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。

「アピロトップ® MX 1キロ粒剤 51」

添付資料 1：適用雑草の範囲および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ  ヒルムシロ  セリ (北陸を除く)  アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 ただし、移植 後 30 日まで	壤土 ～埴土	1kg/10a	1 回	湛水 散布	全域（北海 道、東北を除 く）の普通期 及び早期栽培 地帯

ピリフタドを含む農薬 の総使用回数	プレチアロールを含む農薬 の総使用回数	ペンスフロメチルを含む農 薬の総使用回数	メトリオンを含む農薬 の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	1 回

## 「アピロトップ® MX 1キロ粒剤 51」

### 添付資料 2：使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせて秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの 2.5 葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは 2 葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきは丁寧に行なうこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行なうこと。田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用すること。
- (4) 散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、少なくとも 7 日間は通常の湛水状態（湛水深 3～5cm）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意すること。また、落水、かけ流しはしないこと。
- (5) 下記のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけること。  
特に下記、①～③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意すること。
  - ① 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深が 2cm/日以上）。
  - ② 軟弱な苗を移植した水田。
  - ③ 極端な浅植えの水田、および浮き苗の多い水田。
- (6) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- (8) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (9) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (10) いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
- (11) 散布器具等の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (12) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

「アピロキリオ® MX 1 キロ粒剤 75」

添付資料 1：適用雑草の範囲および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ  ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植後 5 日～ ノビエ 3 葉期、 ただし移植後 30 日まで	壤土～埴土	1kg/10a	1 回	湛水散布	北海道、 東北

ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを 含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチル を含む農薬の総使用 回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	1 回



## 「アピロキリオ® MX 1 キロ粒剤 75」

### 添付資料 2：使用上の注意事項

- 1) 使用量にあわせて秤量し、使い切ること。
- 2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ（北海道）、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワ(東北)は発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 3) 苗の植付けが均一となるように代かきは丁寧に行なうこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行なうこと。田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用すること。
- 4) 散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、少なくとも7日間は通常の湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意すること。また、落水、かけ流しはしないこと。
- 5) 下記のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけること。  
特に下記、①～③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意すること。
  - ① 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深が2cm/日以上）。
  - ② 軟弱な苗を移植した水田。
  - ③ 極端な浅植えの水田、および浮き苗の多い水田。
- 6) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 7) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- 8) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 9) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- 10) いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
- 11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、普及指導センター、病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。

「アピロキリオ® MX 1 キロ粒剤 51」

添付資料 1：適用雑草の範囲および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ  ヒルムシロ  セリ (北陸を除く) アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	壤土～埴土	1kg/10a	1 回	湛水散布	全域 (北海道、東北を除く)の普通 期及び早期 栽培地帯

ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを 含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチル を含む農薬の総使用 回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	1 回

## 「アピロキリオ® MX 1 キロ粒剤 51」

### 添付資料 2：使用上の注意事項

- 1) 使用量にあわせて秤量し、使い切ること。
- 2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの 2.5 葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは 2 葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 3) 苗の植付けが均一となるように代かきは丁寧に行なうこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行なうこと。田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用すること。
- 4) 散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、少なくとも 7 日間は通常の湛水状態（湛水深 3～5cm）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意すること。また、落水、かけ流しはしないこと。
- 5) 下記のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけること。  
特に下記、①～③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意すること。
  - ① 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深が 2cm/日以上）。
  - ② 軟弱な苗を移植した水田。
  - ③ 極端な浅植えの水田、および浮き苗の多い水田。
- 6) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 7) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- 8) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 9) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- 10) いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
- 11) 散布器具等の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 12) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。